

日野市教育委員会 幼児教育・保育の在り方検討委員会

令和5年5月25日

日野市教育委員会 学務課

幼児教育・保育アドバイザー 石田恒久



国の動向

幼保小連携の成果と課題 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)

[成果]

- 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3要領・指針の整合性確保
- 幼保小接続期の連携の手がかりとして「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」策定
- 小学校との連携の取組を行っている園が約9割に上るなど、取組が進展

[課題]

- 幼稚園・保育所・認定こども園の7~9割が小学校との連携に課題意識、各園・小学校における連携の必要性に関する意識の差
- 半数以上の園が行事の交流等にとどまり、学びの連続性を意識したカリキュラムの編成・実施が行われていない
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達目標と誤解され、連携の手掛かりとして十分機能していない
- スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムがバラバラに策定され、理念が共通していない
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」だけでは、具体的なカリキュラムの工夫や教育方法の改善方法がわからない
- 小学校側の取組が、教育方法の改善に踏み込まず学校探検等にとどまるケースが多い
- 施設類型の違いを超えた共通性が見えにくい
- 教育の質に関するデータに基づき幼児期・接続期の教育の質の保障を図っていくための基盤が弱い
- → **接続期の学びや生活の基盤の育成に影響**

国の動向

幼児教育・学校教育に携わるすべてのみなさんへ

「幼保小の架け橋プログラム」について

令和3年7月20日から始まった、文部科学省中央教育審議会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」で議論され、令和5年2月27日に審議のまとめが出された。

かけはしき【架け橋期】

「経験を活かしながら新たな課題を発見し、新しい方法を考え試しながら実現していく5歳」と「自分の好きなことや得意なことを生かしながら、学びや生活につながる力を育む6歳」の2年間のこと。生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期とされている。

かけはしプログラム【架け橋プログラム】

架け橋期の学びの充実に向けて、各地域や施設の創意工夫を生かした取り組みが深まっていくよう、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携、協働し、・・・（中略）・・・すべての子どもに学びや生活の基盤を育めるようにすることを目指すもの。

※いずれも「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」より抜粋。

国の動向

架け橋期の教育の充実について（文科省）

令和5年2月27日中央教育審議会初等中等教育分科会幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会

幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要。そのためには、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが重要。

一方、**幼児教育と小学校教育は、他の学校段階等間の接続に比して様々な違いを有しており、円滑な接続を図ることは容易でない**ため、5歳児から小学校1年生の2年を「架け橋期」と称して焦点を当て、**0歳から18歳までの学びの連続性に配慮しつつ、「架け橋期」の教育の充実を図り、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる**ことが重要。

国の動向

スタートカリキュラム（小学校）

この課題に応える具体的な手立てとして、平成20年の「小学校学習指導要領解説生活編」で示されたのが、スタートカリキュラムでした。国立教育政策研究所では、スタートカリキュラムの意義や効果等の周知・啓発を目的として、パンフレット「スタートカリキュラムスタートブック」（平成27年）を作成し、各学校における取組を支援してきました。

国の動向…国立教育政策研究所

日野市の取組

就学前教育と小学校教育の連携 遊びっ子 学びっ子
接続期における「主体的・対話的で深い学び」とは

第2章 日野市の幼保小連携の始まりと発展 第一節 第二節



幼保小連携教育のあゆみ

- 1986昭和61年 日野市立幼児教育センター開設
- 1989平成元年 指導要領の改訂
- 1992平成4年 学習指導要領 施行
小学校1年生と2年生で生活科の指導開始
- 2004平成16年
文科省「新しい幼児教育の在り方に関する調査研究」指定
- 2005平成17年
ひのっ子就学前 コアカリキュラム作成委員会（幼保小）
- 2008平成20年 幼小連携教育推進委員会
小学校学習指導要領解説生活編でスタートカリキュラムが示される
- 2009平成21年 文科省より「幼稚園教育理解推進事業」に指定
- 2010平成22年 幼保小連携教育推進委員会に変更
- 2013平成25年 幼保小連携教育推進委員会
授業公開（一小入門期の授業公開）

(念願かなって校長会担当者になる)
公立幼稚園の園内研究会に参加（毎年5園実施）
- 2015平成27年 私立幼保 公立幼保による授業公開開始
- 2015平成27年 文科省 国立教育政策研究所より
「スタートカリキュラム スタートブック」発行
- 2017平成29年 日野市教育委員会
「遊びっ子 学びっ子」編集委員会with齋藤政子
「就学前教育と小学校教育の連携 遊びっ子 学びっ子」
東京書籍より出版

幼小教研 総会において
田村 学 氏（文部科学省初等中等教育局 視学官）
講演 「授業を磨くーアクティブ・ラーニングのすすめー」
- 2018 平成30年 すべての小学校での授業公開が一巡する
幼小教研 研究発表会において「生活科・総合的な学習部」発表
テーマ 幼保小連携 滑らかな接続をめざして
- 2019平成31年
幼保小連携教育推進委員会 各小学校で授業公開開始
- 2021 令和3年
小学校授業公開 公立幼稚園園内研究公開 公立保育園参観
公立幼稚園園内研究会に1年次研修 中堅教諭等資質向上研修
研修生参加
- 2022 令和4年 取組の継続 幼児教育・保育の在り方検討委員会
- 2023 令和5年 幼児教育・保育連携推進プロジェクトチーム発足
幼児教育・保育アドバイザー等※による保育園 幼稚園 小学校訪問実施
※（市教委学務課 教育指導課 保育課 発達・教育支援課）

日野市の取組

入門期の小学校の授業の実際

活動の様子見学

	月	火	水	木
	4月17日	18日	19日	20日
朝	仲田	第六	旭が丘	潤徳
1				
2				
中休み				
3	第四	第五	滝合	第八
4				
	月	火	水	木
	4月24日	25日	26日	27日
朝	東光寺	豊田	南平	七生緑
1				
2				
中休み				
3	第三	第七	平山	夢が丘
4				

令和5年4月～6月

授業の参観 協議

	月	火	水	木
	5月8日	9日	10日	11日
午前			万願寺保	むこうじま保
午後				
	15日	16日	17日	18日
午後	第一	第六	南平	仲田
	22日	23日	24日	25日
午前	四幼		杉野幼	
午後		東光寺		
	29日	30日	31日	6月1日
午前	しんさかした保		多摩平幼	
午後	第八		滝合	平山
	5日	6日	7日	8日
午後	第四	七生緑		旭が丘
	12日	13日	14日	15日
午前		第七		
午後	豊田		第三	潤徳
	19日	20日	21日	22日
午後		夢が丘		第五

幼児教育・保育アドバイザー

指導にあたっては、就学前の経験を踏まえ、学びの連続性やつながりを意識して計画を立てる必要がある。その中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の中で、本單元において発揮が想定される姿を生かして、期待する具体的な姿は、以下の通りである。

10の姿の中で発揮される と 予想される姿	10の姿をいかして、学習の中で期待する姿や力
②自立心	先生や友達と共に学んでいく中で、自分なりに考えたり工夫したりして、満足感や達成感を味わっている。
③協同性	友達と積極的に関わり、様々な出来事を共有しながら、互いの考えの違いやよさに気づき、楽しみながら学習を進めることができる。
④道徳性・規範意識の芽生え	学校で安全に楽しく生活するためには、してよい事や悪いことが分かり、きまりを守って行動しようとするすることができる。
⑥思考力の芽生え	学校探検を通して、発見することを楽しんだり、考えたり、振り返ったりして、繰り返し探求することができる。
⑨言葉による伝え合い	探検で見つけた事などを、言葉で伝え合う際、自分の思いや考えを伝えるように話したり、話し合ったりすることができる。
⑩豊かな感性と表現	友達と一緒に話し合いながら、目標に向かって工夫をして、創造的な活動を生み出していくことができる。

一小 浅見 指導案

いちねんせい 学校がつまらない？

- チャイムにしばられる
- 内容がかんたんすぎる
 - 今まで積み重ねてきたものが理解されていない
 - 課題が早く終わると「色塗り」「自由帳」「読書」
- 内容が難しすぎる
 - 45分間の…集中
 - …姿勢保持
 - …座学（話を聞くだけ 反応は挙手後）
 - …ねらいがたくさんありすぎる
- 自発的な活動がなつかしい

アドバイザー(石田)私見

～幼保小の架け橋プログラムの実施にあたり、関係者で共有し
大切にしていきたい視点～

【幼保小の架け橋プログラムの実施に関する視点】

- 幼保小の教育のつながりを意識した活動が、子供の豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります
- 施設類型・設置者・学校種を越えて、**幼保小の先生が、気軽に話し合える関係を構築し、対話を大切にするとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて協働して取り組み、発信しましょう**
- 園・学校等外との連携については、書類上はしっかりとまとめられているが具体的な取組が進まないという批判も聞かれます。**実質的な話し合いや実践を重視し、そうした具体的な取組を可視化し関係者で共有するために、わかりやすい書類を作成していくという意識で取り組みましょう**
- ICTやオンライン等の活用により、先生の負担軽減や時間の効率的使用も図りつつ、効果的に取り組めるようにしましょう
- 全ての先生が関わるプロセスや、組織的な体制づくりを大切にし、接続に関する取組を年間計画に位置付け、持続的・発展的な取組を目指しましょう
- 形式的な取組とならないよう、**家庭や地域も一緒に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子供の姿を起点に話し合いを深めましょう**

国の動向

小学校のスタカリの実践を積み重ね、質を高めることで 幼児教育の質の向上につなげる

- ・保育園 幼稚園 園長から「他の園の保育も見てみたい」
- ・小担任から「他校ではどんなスタカリの授業しているのか？」
- ・小担任から「スタカリの時間 何するの？」
- ・小担任から「4月初めに、訪問指導を受けたかった。」
- ・小担任から「45分集中させるのは無理です」
- ・保護者（新一年生）幼保・小をどのようにつなげているの？
- ・学校説明会で、スタカリについて伝えているか？
- ・学校全体で架け橋期（スタカリ）の理解を広げていく
- ・保護者の幼児教育についての意識を高める
- ・みんなの願い「たのしい まなび たのしい がっこう」

日野市 幼児教育・保育アドバイザーとして